報徳@なう
発行人
滝本一男

おいしく調理した料理も提供します

フードバンクはどこもそうですが、ご提供いただいた食品を、そのまま困窮している方々に提供するのが一般的です。調理するのは一般的に業務外でした。報徳食品支援センターはこの常識を打ち破ろうと思ってきました。

こんな食材があれば、こんなおいしいものができると思うことが多々ありました。また、高齢で料理に手間をかけられない方もおられます。

当センターでは、提供いただいた食品を使い、おいしい料理を作り、皆さんに食べていただくようなことも行うことを決定しました。

この計画には2つの問題をクリアしなくてはなりません。

① おいしく衛生的に調理できる人材が必要ですが、報徳食品支援センターには最適の人がいました。当センター発足直後からお手伝いいただき、当センターの顧問をやっていただいている鈴木美貴さんです。

4 年前まで、箱根や横浜のホテルでシェフを務めていました。



鈴木シェフ

フランス料理だけでなく、各国の料理も手掛けてきましたので、料理経験は豊富です。

そして仲間の方々も協力してくれます。

② 衛生的にかつ大量に調理できる設備が必要です。それも大きな問題はなさそうです。

報徳食品支援センターの建物は、元々日本料理のお店であり、その後インド料理のお店でした。畳の部屋、テーブル席の場所は今ご提供いただいた食品の置き場になっていますが調理場は基本的にそのまま残っています。大型の換気口もついています。

但し、調理設備はありません。従来はそこも食品倉庫として使っていました。それで、各方面からの支援金をいただき、調理設備を整えました。大型の業務用冷凍冷蔵庫、業務用ガスバーナー、さらには業務用コンベクションオーブン、揚げ物をするフライヤーも導入しました。元シェフの要望で、一流料理店並みの素晴らしい業務用調理機器がそろっています。

それ以外に配膳台も必要で、90 × 180 cm 広さの配膳台を、当センターのスタッフが手作りしました。



場所を取らないように脚は折り畳み式です。

重要なのは、小田原保健所の営業許可を得なくてはなりませんが、調理機器が整い、保健所の検査を受け、9月18日からの営業許可を頂きました。これにより、食品衛生法に則り、調理した、料理の提供が可能になりました。

調理師免許と食品衛生責任者を取得している、鈴木シェフが厨房を管理しますが、食品衛生責任者は、当センターに4名います。

おいしいものを、みんなで食べると幸せになります。現在食品提供している団体での、誕生会、クリスマスパーティ等、特別な日においしい食事のお手伝いを考えています。今後、子ども食堂の開催も検討していきます。惣菜料理からフランスコース料理まで、鈴木シェフが、愛情を込めておいしい料理をお届けします。

皆様方のリクエストがあれば、遠慮なく申し出てください。また、よいアイディアがあれば是非教えてください。食欲の秋に、鈴木シェフのおいしい料理が披露できます。



配膳台







報徳食品支援センター　〒250-0212 小田原市西大友 136－1　TEL070-1432-9559　houtoku.foodbank@gmail.com

尊徳翁のようにお国の備蓄米も取り扱い

今年に入ってから、米５kg当たり 3000 円から4000 円、さらにそれ以上になってきました。去年は2000 円でしたから倍以上の異常な価格です。

今年5月に小泉農水大臣になってから、備蓄米がスムーズに出回るようになり、ようやく 2000 円台です。

こういう状況の中で、４月より国の備蓄米の支給がありました。すぐに配布しました。個人には２kg詰めに小分けして配布しました。４月、５月は各 860 kg、６月は 810 kg、７月は1トンです。そして8月、9月は各 1.2 トンです。

今、食品のほとんどすべてが値上がりしています。まして米は、倍の値上がりです。そして、米は日本の主食です。これだけ値上がりすれば、昔は「打ちこわし」も起きました。NHKの大河ドラマ『べらぼう～蔦重栄華乃夢噺～』でも米の値上がりが暴動にも発展しました。また、1836 年の天保の飢饉では、二宮金次郎は、藩主の許可を受ける前に、小田原藩の米蔵を開き、飢えに苦しむ貧民に配り、餓死者の発生を防ぎました。

報徳食品支援センターも報徳先生にならって、困っている人に、備蓄米を配布することをやっています。昔の米蔵でなく、温度・湿度管理がしっかりしている倉庫に保管されていた現代の備蓄米は、品質劣化はほとんどないようで、おいしく食べられます。

皆様方の幸せのために

私たち報徳食品支援センターは、近隣の社会福祉協議会、行政、母子家庭その他の団体と共催で、食品頒布会を開いています。「困窮しているご家庭の一助になれば」との思いからです。

50 年前、日本は、高度成長の中「一億総中流社会」といわれ、困窮した人はいないといわれていました。そういう時代を過ごしてきた人間から見ると、今は貧富の差が大きくなり、生活に困る方々が昔より多くなったなと実感します。

ヨーロッパでは、慈善事業が生活の中で生きているような印象です。キリスト教の愛他の精神もありますが、宗教心の希薄な人でも奉仕の気持ちは当たり前に持っているようです。インドでは、朝、お金持ちの家の前に、鍋を持った子どもたちがいました。その家の家人が大きな鍋を持ってきて、並んでいる子供たちの鍋に食べ物を入れていました。

今、私たちの仕事が忙しいのは、複雑な思いです。助けなくてはいけない人たちが多くなったのですが、そういう人たちのことを考える習慣が日本にも、もう少しあっていいのかなとも思います。日本人は、人のことを思う気持ちは熱いと思いますが、長年必要がなかっただけだと思います。皆様方と、この思いを共有したいと思います。



とりわけ、小さいこどもがお菓子を手にして喜んでいる姿をみると、その思いを強くします。



会費納入のお願いです。

近年度会費を納入いただいた個人・法人の方々には厚く御礼申し上げます。

私たち報徳食品支援センターは、皆様方のご支援で活動できています。会員の皆様方の会費が一番の安定した資金です。地域に根付いた活動をしている指標ともなります。また、補助金を頂く時にも、会員数が一つの目安にもなります。ということで 今年度の会費について、まだお納めになっていられない個人・法人の皆様方には引き続きご支援賜りますようお願いいたします。

なお、振込口座は以下です。

機関名：中栄信用金庫
支店名：開成支店
口座番号：普通 0027309
名称：トクヒ）ホウトクショクヒンシエンセンター



報徳食品支援センター　〒250-0212 小田原市西大友 136－1　℡070-1432-9559　houtoku.foodbank@gmail.com